

別記様式（第14条関係）

附属機関等会議録

令和5年12月21日

会議の名称	令和5年度 第51回島田市諏訪原城跡整備委員会
開催日時	令和5年12月14日(木曜日) 13時45分から 15時30分まで
開催場所	博物館工作室 国指定史跡 諏訪原城跡
会議の議題	<p>《開会》</p> <p>《観光文化部長あいさつ》</p> <p>《報告事項》</p> <p>●令和5年度 諏訪原城跡事業の進捗状況について（9月～）</p> <p>《協議事項》</p> <p>●令和6年度大手曲輪堀の実施設計について</p> <p>●島田市文化財保存活用地域計画及び諏訪原城跡保存活用計画について</p> <p>《現地視察》</p> <p>●諏訪原城史跡整備工事箇所</p>
会議の公開又は全部若しくは一部の非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開（ <input type="checkbox"/> 全部 ・ <input type="checkbox"/> 一部 ）
会議の全部又は一部の非公開の理由	
公開の場合の傍聴人の数	0人
出席者の氏名等	<p>整備委員：小和田委員長、三浦副委員長、中井委員、前田委員、鈴木観光文化部長</p> <p>アドバイザー：大谷班長（県文化財課）</p> <p>事務局：松下課長、萩原係長、坂巻学芸員、山寄主事</p>
会議の結果	<p>《開会》</p> <p>《観光文化部長あいさつ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方のおかげで10日のシンポジウムを大変盛況の中、無事に開催できた。 ・今年は築城450周年及びNHK大河ドラマ『どうする家康』の放送が重なったことで、市議会でも関心を集めており、答弁する機会が増えている。 ・関心が高まっていることを追い風ととらえ、今後も整備事業及び教育普及活動に力を入れていきたい。 ・今週末にお城 EXPO にも出展ため、諏訪原城跡を発信したい。 <p>《報告事項》</p> <p>●令和5年度 諏訪原城跡事業の進捗状況について（9月～）</p> <p>①整備事業について</p>

- ・今年度は、昨年度整備した二の曲輪中馬出沿いの園路整備舗装の続きを約46.7m舗装した。
- ・残り約44mは、地形の起伏が激しいため、来年度は地形測量を実施し、舗装内容の見直しを行い、令和7年度から舗装をする予定。
- ・令和6年度は大手曲輪外堀の実施設計を計画しているが、これまでの発掘調査では堀の形状を把握する材料として不足しているため、令和6年度も新たなトレンチを入れて発掘調査を実施するし、その結果を踏まえて大手曲輪外堀の実施設計を進めていく。
- ・調査方法として、基本的には人の手で掘っていくが、前回の発掘調査のデータがあるため、堀底部分については重機で掘削する。

②築城450周年記念シンポジウムについて

- ・入場者数は533人。
- ・静岡新聞、朝日新聞、中日新聞から取材があった。

③しずおか遺産について

- ・しずおか遺産として藤枝市を中心に焼津市、島田市で今川の文化を申請しており、その中には諏訪原城跡も含まれている。

(委員からの意見)

- ・二の曲輪中馬出の舗装整備は令和6年度には実施せず、測量を行うとのことだが、整備計画には含まれていないためどのように実施するのかという質問があり、事務局から市単独事業として実施すると回答した。
- ・測量後はどのように整備を検討していくのかという質問があり、事務局から整備委員会で測量結果を基に整備方法を議論したいと回答した。
- ・新たに発掘調査を実施する理由を問われたため、事務局から、以前の発掘調査の範囲が狭かったため、前回の調査箇所から離れた場所にトレンチを入れることで、前回の調査結果と同じ結果が得られるのか、また、法面の土砂の形状も調査したいと回答した。
- ・東光寺文書はしずおか遺産の対象にはならないのかという質問があったため、事務局から、県からなるべく見学者が実際に見ることができるものを優先してほしいという要望があったので、今回はそういったものを優先していると回答した。
- ・野田城の現状について問われたため、事務局から、城山保存会が木を切ったり見学路の整備を行っており、堀切等が以前よりも見やすくなっている。また、市が発掘調査を実施した結果、浅い堀が検出されていると回答した。

《協議事項》

●令和6年度大手曲輪堀の実施設計について

- ・大手南外堀は、発掘調査の結果土塁は確認できていない。遺構への影響が少なく耐久に優れ、景観にも調和するのということ、仕上げを貼り芝とする。
- ・大手北外堀は、一部土塁が確認されており、一緒に整備していく。
- ・発掘調査が一か所しかされていないので、来年度の発掘調査の結果も踏まえ、実施設計について再検討していきたい。

(委員からの意見)

- ・南外堀の城内側、城外側の高さが、城外側の方が高くなっているが、それでよいのかという質問があったので、事務局から、前回の調査ではそのような様子が確認されたが、来年度の発掘調査の結果を踏まえて検討したいと回答した。
- ・北外堀の左手の土手に、テラス状の部分が見られるが、テラスと判断してよいのかという質問があり、事務局から、前回の調査ではそのような形状が確認できたが、堀全体がそのようなであったかの確証はないため、来年度の調査でも同じ形状が見られるか確認したいと回答した。

●島田市文化財保存活用地域計画及び諏訪原城跡保存活用計画について

①島田市文化財保存活用地域計画

- ・島田市文化財保存活用地域計画の中では、区域2として諏訪原城について記載する。
- ・諏訪原城の簡単な歴史、特徴、現状と課題等を記載していく。
- ・諏訪原城の構成文化財の洗い出しを行っている。絵図面や、諏訪原城からの出土品等を構成文化財として記載する予定。

(委員からの意見)

- ・地域計画の策定期間について質問があったため、事務局から、現在文化財の洗い出しと文章の骨子案を作成しており、来年度には協議会を発足し、最終的には令和7年12月の認定を目指していると回答した。
- ・現状と課題の項目には、近年来場者数が増加傾向にあるため、そういった評価できる点も記載した方がよいという助言があった。

②諏訪原城跡保存活用計画

- ・島田市文化財保存活用地域計画策定後に策定する。

- ・諏訪原城跡の保存管理計画は平成5年に策定しているが、保存活用計画を策定する必要がある。
- ・目次は文化庁からのマニュアルと、沼津の興国寺城の計画を基に設定した。この目次案を基に、原稿を書き溜めていきたい。
- ・第4章「史跡をめぐる現状と課題」の骨子案を作成した。前回の保存管理計画に記載したものを基に、その後の現状も追記している。一番の課題は環境整備である。
- ・活用方法として、市民協働課主導でワークショップを開催し、市民の意見を反映させた事業をすすめていきたい。
- ・諏訪原城跡の歴史と発掘調査及び史跡整備の現状の中で、優先して進めていきたいのは保存管理である。土地の公有化、発掘調査基準の明確化を次回の整備委員会から協議していきたい。
- ・内部問題として、整備と発掘調査の専門職員をどのように確保していくことが課題。

(委員からの意見)

- ・策定年度に関する質問があったため、事務局から保存活用計画は令和8～9年度、整備計画は令和10～11年度であると回答した。
- ・保存活用計画策定委員会は立ち上げるのか、また、整備委員会はどのように関わっていくのかという質問があったが、事務局からその点については次回委員会までに検討していきたいと回答した。
- ・県文化財課職員から、計画の中で使用する図面などは専門業者に依頼した方がよいという助言があった。また、課題に順位を付けた方がよいという助言もあった。
- ・本質的価値の部分は諏訪原城跡独自のものであるため、もう一度諏訪原城独自の価値を見出す必要があると助言があった。

《現地視察》

●令和5年度 史跡整備（園路）箇所にて

(委員からの意見)

- ・大雨が降った際の水の排出处理が課題である。水がたまると堀が崩れてしまうこともある。
- ・自然災害による被害等についても整備計画等に記載していく必要がある。
- ・県文化財課職員から、自然災害による被害の対策については、同じような状況下にある県内の城の担当職員と意見交換をするとよいという助言があった。

会議を所管する課 の名称	島田市観光文化部博物館課
その他必要な事項	